

## 宇宙博をみてきた コックピットばかり見てました

幕張メッセで開催されている宇宙博を見に行きました。今回は、JAXA と NASA の宇宙開発関係の様々な展示が一同になされるということでしたが、JAXA 関係は2年前に名古屋で開催された国際航空宇宙展でひととおりのものは見ているので、特に NASA 系の展示物に期待大でありました。

私たちの世代にとって宇宙関係の展示というと 1970 年の万国博覧会のアメリカ館やソ連館を思い出します。1970 年は、その前年にアポロ 11 号が初の月面着陸を成し遂げるなど、宇宙開発競争の真っ只中で、月の石とか月面探査船(ルノホート)だとか、それぞれの館では「これでどうだ！」というような展示物が目白押しでした。

今回の宇宙博は、展示の体裁としてはまさに「万博」の再来で、「これはぜひ行かねば」という決心のもとで出かけました。

話し出すといろいろあるので、面白い展示物があった中で、今回はコックピットのことを紹介します。

これまで、宇宙開発に関しては、いろいろなエピソードが映画化されており、そのなかでも、ノンフィクション系としては、ライトスタッフとかアポロ13とかが思い浮かびます。このような映画では当然に宇宙船内部の様子がセットで再現されて撮影されるわけですが、演出の関係もあるのでしょうか、「これは違うやろ」と思うような計器類が画面に登場して、妙に気になってしまうことがあります。(典型的な例としては、アポロ13で、指令船のコックピットに緑色LEDの数字表示が使用されているなど。) なんとなく臭いなあ、と思うものの、それでは実際のコックピットはどうなっているのか確認するすべも無かったのですが、今回は、その機会が巡ってきたというわけです。

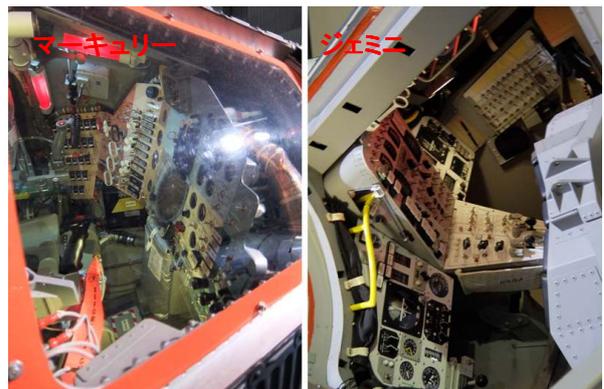
そして、会場に入って早速に見つけてしまいました。BellX1のマッハ計であります。(右上)これは、チャック・イェーガーが始めて音速を超える飛行に成功した機体のものなのですが、直感的に目盛の位置に違和感を覚えたので家に戻ってからライトスタッフのDVDを見て確認すると、最高速度が違うというマニア的なところに眼が行っていたのでした。(もしかすると、後になって計器が付け替わったのかもしれませんが..)



左:ライトスタッフのマッハ計 右:展示物

こんなところから始まって、そのほかにも、マーキュリーカプセル、ジェミニカプセル、アポロ司令船、月着陸船、スペースシャトルと、歴代の宇宙船のコックピットを見て回って、とても満足がいっぱいでした。

ちなみにですが、やはりアポロ司令船には、LEDの数字ディスプレイはありませんでした。



## メカが大好き 月食早見盤

10月8日の月食に備えて、「月食早見盤」を製作しました。上半分は普通の星座盤で当日の月の位置を示しています。そして下半分は月食の経過がわかるよう、本影の中を満月が通過していく様子をシミュレートしています。月の動き方が円弧になってしまうので若干実際とは進行の様子が異なってしまいますが、まあその辺は許容範囲ということです。

ちなみに写真に写っているもうひとつ右側の円盤は、未来のいくつかの月食を再現しようと試作したもので、本作のヒントになっています。こちらのほうは実用性はいまひとつで、そのまま放置していたのですが、今回の早見盤の製作で復活しました。アイデアというのは暖めておくものだなあと感じます。



今回は型紙をおまけにつけました。  
完成図を参考に作ってみてください。

## Books & CDs スプートニク スпутник／ジョアン・フォンベルタ

今回は有人宇宙船を話題にしたので、書籍のほうもその系統のものを紹介します。で、ジョアン・フォンベルタの「スプートニク」は、旧ソ連の宇宙開発にまつわる事故のお話です。物語は、旧ソ連の体制崩壊に伴って(資金稼ぎのために)宇宙開発に関係する様々な物品がオークションに出品されるようになり、たまたま著者が競り落とした資料の中から「存在を消された“宇宙飛行士”がいた証拠」が見つかった・・・というところから始まり、その宇宙飛行士の数奇な運命が、著者の想像と妄想のもとに綴られていくといった体裁のものです。

たぶん、冒頭のくだりはある程度本当のことなんだろうと思いますが、話が進むにつれて「？」の数が指数関数的に増大し、最後まで読み進むのが辛くなるというか、前半の緻密さが薄れてだんだんと手抜きになっていくことに「騙すなら騙すでいいから、もうちょっ

と工夫できんのかいな」といいたくなる代物でした。前半でキャッチしてしまえば、商業的にはOKなんだろうけれど、なんだか良心の無さが悲しいです。

で、最後の最後、奥付のところに至ってようやく「この物語はフィクションです」と申し訳のように書いてありました。これはせめてもの良心かな？



## 編集雑記

先日Eテレのサイエンスゼロで、「空気中に浮遊する微粒子(雲の核となるもの)が多くなったせいで、雲が成長せずに降雨にならないため寿命がとても長くなっている。」といった話題を放送していました。そういえば、春先から梅雨まではそんな感じの天気が多かったと振り返ってみつつ、それにしてもこんなに晴れないのはどうしたことか・・・とってしまいます。

いくらずぼらな星見屋でも限度があるよ。早く晴れてね。

Kz\_Wada 和田一人 [Kazuto.wada@nifty.com](mailto:Kazuto.wada@nifty.com)